



佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2025年6月 - 第37号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ：夏至祭

6月に夏至があり、今年は21日です。北半球では一年間で最も昼間が長い日で、最も夜が短い日です。世界中の人々が夏至を祝い、特にヨーロッパの国々では盛大に祝われます。かつてヨーロッパに住んでいた民族は、夏の最初の日が5月1日だと考えていたので、夏至祭を「ミッドサマー」(真夏)と呼ぶこともあります。キリスト教がヨーロッパで普及し、洗礼者ヨハネの誕生を記念するため、夏至祭を「聖ヨハネの日」という名前に変えた国もあります。どちらの名前で呼ばれていても、夏至はヨーロッパ人にとって、外で集まり、焚き火を囲み、踊ったり、歌ったり、食べたり、飲んだりする日です。



夏至祭で花冠を被ったスウェーデン人

私は、ヨーロッパに一度も行ったことのないアメリカ出身者なので、向こうで行われる夏至祭についてあまり詳しくありません。そこで、江別市に14年間住んでいるリトアニア人の外国語指導助手であるジュリアス・ジリンスカスさんに、リトアニアで祝う夏至祭について尋ねました。とても興味深い話なので、ぜひお読みください！

リトアニアの夏至祭

リトアニアでは、夏至祭は「ラーソース」(露の日)または「ヨーニネース」(聖ヨハネの日)といわれます。バルト三国(エストニア、ラトビア、リトアニア)では、夏至祭は祝日で、6月23日の夜から24日にかけて祝われています。

ジュリアスさんによると、ラーソースは植物の成長を祝うための伝統的な行事です。「ラーソースは14世紀初頭の古文書で初めて言及され、当時は5月末に14日間にわたって行われていました。現在では、伝統的な行事は1日だけ祝われる一方、最近の行事は6月に数日間行われることが多く、『ヨーニネース』と呼ばれることが一般的です。」ラーソースは異教の名称であり、ヨーニネースはキリスト教の名称であるようです。ジュリアスさんはさらに、「長い年月を経て伝統が変わったものの、一部は今でも残っています」と付け加えました。



花が咲いているのかな？

現在でも残っている伝統の一つに、魔法のシダの花を探すというものがあります。通常、シダには花が咲きません。しかし、夏至の真夜中にシダの花

が咲くという神話があります。「この魔法の花は、静かに探さなければなりません。見つけた人には幸運が訪れると言われていています」とジュリアスさんは説明しました。



民族衣装を着たヨーニネースを祝っているリトアニア人たち

ヨーニネースのイベントは全国各地で行われています。ジュリアスさんの故郷であるクライペダでは、民族衣装を着て(民族衣装は地域によって異なるそうです)、伝統的な民謡を歌い、焚き火の周りで踊ります。市民はパフォーマンスを見ながら、飲んだり、食べたりして楽しめます。ジュリアスさんは、「この祭りでは、木製やリネン製の商品、おもちゃ、ろうそく、食べ物や飲み物を販売する屋台がたくさんあります」と説明しました。そして、ビールはこのイベントの新しい伝統で、大手ビール会社は町のいたるところに自社のブースを設けています。「札幌市にある大通公園で開催するビアガーデンのようなものです」とジュリアスさんは語っていました。



クライペダの大きな焚火

ジュリアスさん、読者の皆さんにリトアニアの文化を説明してくださり、ありがとうございました！リトアニアの夏至祭についてもっと知りたい方は、[このビデオ](#)をご覧ください。

他の国の夏至

イギリス:ストーンヘンジは夏至の朝の日の出と完全に一致するように建設されました。なぜそのように建てられたのかは不明ですが、現在では夏至を

祝うために何千人の人々がここに集まります。儀式が行われ、参加者は歌ったり踊ったりします。一年の中で、無料で中まで入れる数少ない機会です。



アメリカ:高校の時、友達が夏至の日に庭で焚き火パーティーを開いていました。彼の家族はアイルランド系アメリカ人で、ケルトの伝統を大事にしていたようです。

そして、私の故郷であるシアトルのフリーモント地区では、毎年お祭りとパレードが開催されます。「フリーモント・ソルスティス・パレード」は、ボディペイントしかしていない裸のサイクリストが自転車でパレードを堂々と先導します。このイベントはアートのユニークな雰囲気です。



カナダ:6月24日はケベック州の祝日である「フェット・ナショナル・デュ・ケベック(ケベックの日)」です。この祝いはフランスからの植民者によってもたらされたため、ヨーロッパの夏至祭といくつかの共通点があります。例えば、焚き火やパレードなどが行われます。この祝日には、元々フランス系カナダ人の守護聖人である洗礼者ヨハネを祝っていましたが、現代では宗教的な意味合いよりも愛国的な意味合いが強くなり、ケベックのフランス系カナダ人にとって独特な文化を祝う日となっています。★



お問合せ先
教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434

